

3 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産は、降雪・降雨で作業が遅れ、生産量も減少。入・集荷の状況は搬出道が傷み入荷量が減少。悪天候と国有林の出材終了により入荷量は減少に転じている。丸太の凍結により稼働が低下していた製材工場は平常の生産態勢となり、スギ柱材を中心に引き合いが戻り始めた。スギ中目材、ヒノキ柱材は低調な荷動きが続いている。全般に値を下げていた市況はスギ柱材など反発の兆しも見られる状況。柱材はスギが強保合でヒノキは弱含み、中目材はスギが弱保合でヒノキは保合。土場に大量に滞留し市場機能に支障が出ていた放射性セシウム付着の樹皮については、現在国庫補助事業で処理が進められ、当座の危機は回避された。群馬は原木の入集荷は特に問題なく、原木在庫は多め、操業度は依然低水準。販売状況は低水準ながらやや回復の兆し。製品在庫多め。製品価格は販売厳しくジリジリと低下。国有林の出材が終わりスギ原木は少な目、価格も下げ止まりから上昇に向かう気配。ヒノキ中目材は記録的安値でスギと同価格。

2. 米材

1 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 1.5%増の年率 69 万 9,000 戸となった。米国丸太は依然中国向けの出荷が低調なことから伐採調整が続く。価格は保合。カナダ丸太も同様だが、細丸太(28cm 下)は日本の合板メーカーの引き合いが強く、価格は強含み。セカンド、オールドは保合の状況。産地の港頭在庫は 1 月から発表なし。1、2 月積みが多かったため、在庫は減少している模様。ウェアハウザー社の 3 月積み米マツ IS ソートは前月価格据え置き。米材丸太の入荷、在庫は増加傾向、出荷は横這い。大型港湾製材工場の 2 月の荷動きは、不需要期のため低調。内陸部製材工場も同様に低調で当用買いが続く。製材品の TLT(東京木材埠頭)の 2 月入荷量は前月比 43.0%の大幅減、出荷量は同 8.6%減で、在庫は入荷減の関係で 20%減。産地情勢は、米ツガ、米マツとも生産に大きな変化なし。産地価格は全般に横這いで推移。荷動きは停滞気味。

3. 南洋材

サバは天候不順で出材が落ち、規制強化で山土場からの運材が滞っているとの情報。合板用丸太の相場は国内外の引き合い少なく弱含み。製材用良材は絶対量が少なく強含み。製材品の一等材は棒類を含め高値で推移。サラワクは悪天候が続く出材に影響。国内の大手合板工場からの丸太の引き合いは日本からの注文が落ちていることもあり、相場は横這いかや

や弱含み。輸出向けもインドからの引き合いが下級材を除き全般的に減少し、相場は弱含み。PNG・ソロモンは天候不順の中、中国からの引き合いが引き続き旺盛で強含み。丸太の入出荷、在庫とも横這い。製材品の入荷も横這い。原木の販売は、合板用・製材用とも変わらず。製材品の販売は、集成材の荷動きは鈍いが、平割一等材は入荷少なく動きは良い。

4. 北洋材

ロシア極東の中国向け配船は低位ながら底堅く推移しているが、日本の合板メーカーからの引合いは相変わらず乏しく、今後日本向けのシッパーがいなくなるのではないかとの懸念まで出てきている。合板向けカラマツ丸太の入荷は前年比 50%の 10 万 m³まで落ち込んだ。シベリア地方は 1 月からの大寒波が去り、生産は上向いているが、例年になく中国満州里市場の盛り上がりには欠け、例年なら最高値を迎えるシーズンにもかかわらず横這いが精一杯の状況。富山港・富山新港の 2 月丸太入荷は、8,352 m³(アカマツ 6,083 m³、カラマツ 0 m³、エゾマツ 2,269 m³)と先月比 94%減。一方、製品は 11,787 m³で先月比 177%増。丸太の売行きは悪く動き低調。製材品は首都圏で輸入完成品の荷動き低調で港頭在庫も増加気味。出荷は低調で在庫は 1~2 ヶ月。丸太価格はエゾマツ、カラマツ、アカマツとも横這い。製材品は弱含み。国内製材工場は、受注状況低調で、丸太は採算割れのため原板の再割で対応。

5. 合板

合板用国産材、南洋材、米材丸太とも価格は全般に横ばい。南洋材、針葉樹合板メーカーともに、原木在庫に問題なく、メーカーによっては生産調整している状況。1 月の国内合板生産量 20 万 m³のうち、針葉樹合板は 18 万 m³(前月比 4%減)となり、出荷量は 17 万 m³と好調だった前年同月を大幅に下回り実需の乏しさと市場での買い控えが表面化し、在庫は 16 万 m³で 8 ヶ月連続増加。販売価格は、東日本のメーカーが横這いを堅持しているが、市場では下値を探る動きが続き、下落への懸念は払拭されていない。春先以降は実需が回復するとの見方が強く、暫くはにらみ合いの状況続く見通し。国産南洋材合板は輸入合板の影響もあり、市場では買い控えが顕著で、引き続き荷動きは低調。針葉樹合板は市場でのムードに変化はなく大半が当用買いに徹している。下落には歯止めがかかっているが、先行きは不透明との見方が多く、様子見の姿勢は継続。輸入合板は 12mm 厚品を中心にまずまずの状態。じり安の展開続き、市場での手当ては当用買いに変化なく引き続き慎重な状況。輸入合板は円安、船賃上昇、産地通貨高、原木事情など、産地では反転の材料がそろっていることから、市場では底値感が出始めている。商社筋が決算月でもあり、販売の仕方が注目されている状況。

6. 構造用集成材

原料・ラミナの入荷は、暖冬の影響から原木不足で減産工場もみられ、多少の入港遅れが発生している。一方で 1 月下旬から 2 月にかけての厳冬による港の凍結で出港遅れも発生しており、4 月の入港がずれ込む可能性がある状況。第 1QTR の交渉が終了し、10 ユーロ前後の値上げとなった。ユーロ価格上げの円安で春以降の入港分に関しては円ベースでの価格上

昇となる見込み。価格は次回 QTR の交渉が行われておらず、現地の出港遅れとラミナの春以降の値上がりから見て、先高感があるので、製品の交渉も値上げが唱えられる模様。国産集成材の・販売・荷動き・受注は横這い。4 月以降は物件が動き始めると予測。在庫は生産調整により横這い。依然関東を中心に職人不足が深刻な中、分譲系ビルダーは勢いあるが注文系は苦戦している。現場では地域材補助金制度が話題となっている。

7. 市売問屋

国産構造材は、ヒノキ柱角が悪い。ヒノキ柱取り丸太も西から値下がりしており、価格維持が困難。外材は入荷が順調も引き合い鈍い。造作材は、国産材ではスギ建具用は堅調維持だが、建築用造作材の動き悪い。外材は、スプルス、ピーラーの良材が極端に入荷薄く、対応に苦慮。買方からは仕事量が少なく暇とのぼやきが増えている状況。市場への来場者も減少気味で先行き不安。春需への期待が膨らみ、展示即売会が盛んになってきており、地方では盛況だが首都圏ではぱっとしない状況。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギ KD 柱、小割、ヒノキ KD 柱、土台とも保合。外材は、米ツガ KD 平割、正角、ロシアアカマツ垂木は弱保合。WW 間柱弱い。造作材スプルス、ピーラー良材少ない。WW、RW 集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹、ラワンともに弱い。床板、フローアは変わらず。プレカット工場は、相変わらず町場の仕事は厳しい。工務店はリフォーム中心だがに仕事が出てきている。新築住宅は成約が出来ず厳しい。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)